



ギフチョウ・ヒメギフチョウの産卵数調査

全 全国的に珍しいギフチョウとヒメギフチョウの混生地となっている川前地区で、地区住民らによるチョウの産卵数調査が5月10日(水)に行われました。同地区では「ギフチョウ・ヒメギフチョウを保護する会」(齋藤忠雄会長)を組織し、生息地域の下草刈りや愛護看板の設置など30年間にわたって保護活動が続けています。産卵数の調査も活動の一環として毎年この時期に町教育委員会と合同で行っているもので、今年は地区住民など8名が調査を行いました。参加者はギフチョウ・ヒメギフチョウの卵が産みつけられるコシノカンアオイとトウゴクサイシンの葉をめくり、産みつけられた卵の数を記録していました。調査の結果今年の産卵数は平年を上回っていて、良好な環境が保たれていることが確認されました。齋藤会長は「安定した産卵が確認できてほっとしている。これからも下草刈などを続け地区の自然を守りたい」と話していました。

被災地の住民と心かよう交流

東 日本大震災で被災した方が暮らす仮設住宅などの住民との交流会が4月22日(土)に行われました。交流会に参加したのは社会福祉協議会の田中正信事務局長ほか町内有志で、石巻市竹浜地区の公民館を訪れて仮設住宅や公営住宅で暮らす方とふれ合いました。竹浜地区の仮設住宅は当初50世帯ほどが暮らしていましたが、震災から6年が経過した現在、住民はわずか3名となっています。交流会では町から参加したメンバーが手打ちそばを振る舞い、会食を楽しみました。田中局長は「毎年この地区には福祉ボランティアいこいの会のメンバーが訪れ、芋煮会を行っています。今回は少人数ならではのきめ細かい交流ができました。引き続き交流を続けたい」と話していました。



町民目線の町政を

平 成29年度町政懇話会が、4月21日(金)に役場大会議室で開催され、町議会議員や各地区の区長、農業委員会委員など約60名が参加して、今年度の町政について話し合いました。懇話会では、庄司町長が「おとし策定した大石田町まち・ひと・しごと創生総合戦略に沿って定住対策など人口対策を一步一步進めていきたい」と基本方針を説明し、横山副町長が町の財政状況を、布川教育長が教育方針をそれぞれ説明しました。

その後の質疑応答では、地域の活性化や住みよい環境づくりにむけた、活発な意見が交わされていました。



ニュース 玉手箱

身近なできごとや楽しい話など、広報紙で紹介したい話題をお気軽にお寄せください。町のホームページの「早耳通信」でも、大石田町のいろいろな話題を紹介していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.town.oishida.yamagata.jp>

■総務課 総務グループ TEL 35-2111 内線218



定植イベントで土とふれあう

ス イカオーナー会の定植イベントが5月3日(水)に深堀ふれあい農園で行われ、県内外から大勢の家族連れが訪れて、土とふれあいました。イベントには宮城県や東京都など遠方からも多くの方が訪れ、例年の3倍、約250名の方が参加しました。定植作業では参加者が自分の苗を受け取って次々に畑に入り、スイカを管理する芳賀哲雄さんの説明を聞きながら、苗をていねいに植え付けていました。植え付けた苗は「祭りばやしレブン」という品種で、糖度が高く身がしっかりしているのが特徴。スイカはこのあと、寒暖差の大きい大石田町の気候によって、甘くおいしく成長します。7月下旬には大きく成長したスイカを収穫する「収穫イベント」が行われる予定です。



きれいな河川に

ク リンアップおおいしだ大作戦が5月14日(日)の早朝、町民約600人が参加して、最上川、丹生川などの河川敷で行われました。これは大石田町地区衛生組織連合会が実施しているもので、参加者はペットボトルや空き缶、ビニールなどの流れ着いたごみを拾い上げていました。中にはタイヤなどの粗大ゴミも見受けられ、およそ1時間半の清掃の間に集められたごみの量はボランティア袋400袋、900kgにのぼりました。

